

令和 2年 6月12日総務財政委員会－06月12日

◆吉川守 委員 すみません、申し訳ありません。創志会の吉川守です。1年間、どうぞまたよろしく願いを申し上げたいと思います。

先ほどは大西委員のほうから、特別定額給付金についての御質疑がありました。重複をせずに、聞かれたことと別のことを聞きたいなと思います。

6月4日に発生しました二重払い、私も報告を受けましたけれども、たくさんの市民の方々がこの給付金楽しみに待っておられる、それがまた二重に給付をされたということですが、これについて、どうしてこのようなことが起きたのか、まずはお答えをいただきたいと思います。

(信貴副委員長、西田委員長に替わり委員長席に着く)

◎若林 特別定額給付金室長 特別定額給付金の申請はオンラインまたは郵送の2つの申請方式がありまして、重複申請が行われていないか確認する必要があります。オンライン申請におきましては、5月1日から受付を開始し、できるだけ早く給付できるよう、給付金管理システム開発前にパソコン管理によって給付を行ってまいりました。6月4日の事案は、オンライン申請をした後に児童扶養手当受給世帯の郵送申請をした世帯に対して、委託事業者において重複した支払データを作成しないよう、チェックをした上でデータを作成すべきところ、それができておりませんでした。

さらに、特別定額給付金室におきましても、当該支払データを確認する際に、一部データの確認が漏れていたため、二重払いが発生してしまいました。以上でございます。

◆吉川守 委員 まだオンラインで1万五、六千とおっしゃってましたけれども、その中のチェックがなかなかうまくできなかったと。郵送の申請書は全ての方々に送られるということがあるんでしょうけれども、待っておられる方々がおられるんで、システムそのものが間に合わなかったということもあるのでしょうかけれども、それではチェックの体制はどのようなになっていたのかお答えをいただきたいと思います。

◎若林 特別定額給付金室長 5月28日までに受け付けましたオンライン申請及び児童扶養手当受給世帯の郵送申請が委託事業者におきましては、システムによらず、パソコン処理で支払データの重複チェックを行っていましたが、重複フラグが立ちましたデータを削除する際の人的処理にミスが生じまして、そのチェックが不十分でございました。

特別定額給付金室におきましては、委託事業者から納品されたデータを過去に給付したデータと合わせて重複がないかをチェックしていましたが、そのチェックは1回のみで行ってございました。以上でございます。

◆吉川守 委員 それでは、再発防止対策、もう30万件が、また新たに申込みをされてるということです。今日から、もうその給付も始まったということですけども、これについてはどのようにお考えなのか、お答えください。

◎若林 特別定額給付金室長 二重払い防止におきましては、委託事業者に対して二重払い防止のチェック方法と管理体制の見直し及びその実施の徹底を求めました。

また、特別定額給付金室のデータチェックにつきましても、手法を変えて、複数回行い、正確な事務処理を徹底してまいります。以上でございます。

◆吉川守 委員 大変忙しく、膨大な量であろうとは思いますが、間違いなく早急に届けられますように、お願いを申し上げたいと思います。よろしくお願いします。

次です。先ほど伊豆丸委員のほうからも質問がありましたが、大綱質疑で私も緊急質問ということでさせていただこうと思いましたが、信憑性を含めたこの質問を行いたい旨を申し出たわけなんですけれども、協議の結果、撤回ということになりました。また、総務財政委員会という思いがありましたので撤回をさせていただきました。

まずは、この経緯について、市に情報が寄せられた、この経緯について、概要についてお知らせをいただきたいと思います。

◎野村 人事課長 まず5月の下旬に人事課に対して、緊急事態宣言がなされている大型連休中に職員が議員と一緒に賭けマージャンをしていたという情報が寄せられたものでございます。以上でございます。

◆吉川守 委員 名前を挙げられてというようなことがありましたけれども、その根拠となるもの、これを取り調べる、調査をするという根拠となるものは何だったんですか。改めてお聞きしたいと思います。

◎野村 人事課長 根拠といいますか、人事課のほうには様々な職員に関する情報が寄せられることがございまして、うわさ話などであるとか、非違行為に関わるようなものでありますとかという情報が寄せられますので、そういった情報が寄せられましたら、それについて服務関係の立場から1件1件調査を行ってきました。以上でございます。

◆吉川守 委員 今、うわさ話もあろうということですが、結論からいいますと、職員さんの作り話であったということが、後で聞き取りをされたように思いますが、市としては、まずはどのような調査を行われたのか、お答えをいただきたいと思います。

◎野村 人事課長 寄せられた情報の中に、具体的な職員の氏名が挙げられておりましたので、該当する職員4名に対して、4回から5回、聞き取りを行いました。以上でございます。

◆吉川守 委員 複数回にわたって行われたということは、通常なんですか。非常にやっぱり疑わしきものであるということで行われたんですか、どうですか。

◎野村 人事課長 通常の人事の調査におきましても、複数回のヒアリングを行うことはございます。今回の件につきましては、様々なヒアリングといたしますか、確認の作業も含めたものも含めての回数ということでございます。以上でございます。

◆吉川守 委員 それでは、何回か行われた、その聞き取りを行われましたけれども、調査の結果はどのようなものであったのですか。

◎野村 人事課長 聞き取りに対しまして、該当職員全員がそうした事実はないと述べており、事実の認定はできておりません。以上でございます。

◆吉川守 委員 この前の大綱で、これが報道されたということがありまして、私と自民党の、それぞれ名前を挙げられた議員が属する団長に、その当事者でございますね、A職員と言われる方からアポイントがありました。10日の日に、昨日、おとといにお会いをさせていただきました。まずは謝罪の部分と、今までの経過の部分の説明したいということで、お話を伺い、文書もいただきました。人事に関することで答えられないところがあると思いますけれども、聞き取りをされた中で、イエスと思われるところも含めた中で、ちょっとお答えを時系列に、これ読み上げますので、していきたいなと思ってます。

まずは、6月8日の堺市市議会本会議にて、池田議員より堺市議と職員が緊急事態宣言が出されていた時期に賭けマージャンをしたのではないかという質疑があり、またその様子を関西テレビ等が報道をしました。この件については全てが酒席での私の作り話に始まったことであり、御迷惑をおかけした皆様には、改めておわびを申し上げます。

この件については、違いますね、一方、これが作り話であることは池田議員や、同じ維新の青谷議員には伝えておりましたが、そのことには触れずに、それが真実であるかのように質疑をされたことは、大変残念に思っております。ここで改めて、なぜ私が青谷議員に作り話をし、また後になって、それを告白するに至ったかについて、私の心の中についても併せて説明をさせていただきます。これが冒頭でございます。

時系列でいいますと5月7日、同期の市職員より時期が落ち着いたらマージャンでもやろうかという話があるので、また声をかけるというような内容の話をもらいましたと。このマージャンは1月ごろから話があったものの、なかなか開催できていなかったものです。ど

のようなメンバーかを尋ねたところ、候補として、4人の議員と局長の名前が挙がりました。私は、その方々は存じ上げてはいるものの、一緒にマージャンはしたことがなく、そもそもマージャン自体をあまりしていませんでしたので、どこで行われるかなど、気になることを聞いた記憶があります。これが5月7日です。

聞き取りの中でも、このような聞き取りがあったのでしょうか。答えられる範囲でいいですからお答えください。

◎野村 人事課長 詳細な内容については、この場ではお答えはしかねるんですが、大筋、そういった内容のことをお話をされてたかと思います。以上でございます。

◆吉川守 委員 次に、5月13日、夜、維新の会を応援されている民間人の方と電話で話をしましたが、内容は大阪維新の会堺市議団の団長選挙についてでした。このとき、私はお酒を飲み、酔っている状態でしたが、私はこれまで個人的にも応援をし、尊敬をしていた池田議員が団長に選出されなかったことについて、お酒の勢いもあって、非常に憤慨し、池田議員も議員や職員と仲よくつながりを広げてほしいという個人的な思いと、自分自身の重要性を認めてもらいたいという思いがない交ぜになって、つい自分は数人の議員さんたちとマージャンをしたという話をしてしまいました。これからするという話を、重みを持たせるために、もう既にしているかのように話してしまったのです。また、この時点では東京での賭けマージャンの事件はニュースになっておらず、後に大変なことになるとは思いもしませんでした。この事実についてはどうですか。

◎野村 人事課長 先ほどと同じなんですけれども、あまり心の内、詳細にまでは私どもも確認はできていませんが、大筋の流れにつきましては、そのような旨を申し添えておりました。以上でございます。

◆吉川守 委員 次に、5月19日、青谷議員に誘われ、13日に電話した民間人の方と3人で居酒屋で会食をしました。コロナの外出自粛中でしたが、ふだんからお付き合いのある青谷議員からの久しぶりのお誘いでしたので快諾をしました。今まで3人でよく行っていたお店ではなかったので、不思議に思いましたが、その民間人の方のよく御存じのお店のようでした。このときも維新の会の団長選挙の話が話題の中心でした。それに対して、私は池田議員がもっと柔軟になってほしいとの思いを強くし、その場でもそうした主張をしてしまいました。お酒が進んだころ、民間の方から私が13日に電話で話したマージャンの話をしてほしいと振られました。青谷議員もマージャンをよくされていたようで、この話、作り話を大変面白そうに聞いてくれました。笑いながら事細かに質問されましたが、これほど面白そうに聞いてくれている以上、いつもお互いに話をしていて、ここだけの話なので、まさかこれが公になるとは思わず、聞かれるがままに話を盛り上げて、真実であるかのように

話を作り上げてしまいました。このことについてはどうですか。

◎野村 人事課長 大筋では、そのようなことを申ししておりました。以上でございます。

◆吉川守 委員 続いて、5月20日です。青谷議員から19日の飲み会での話を確認するLINEがありました。私は、ここでも飲み会の軽い調子のままに、作り話でしたとも言えず、確認されるがままLINEを送り返してしまいました。また、その話を池田議員に話してもいいかを尋ねられ、少し不安な気持ちになったものの、尊敬する池田議員なら自分の池田議員を思う気持ちを受け止めてくれるとともに、悪いようにはしないと信じて青谷議員の判断にお任せをしました。これはもう確認するというよりは、このままいきます。

21日に、東京での賭けマージャンの事件がニュースになり始め、事の重大性を感じ始めました。このため、青谷議員に電話をしましたが、大丈夫だと言われ、このときも青谷議員と池田議員を信頼をしました。

5月22日の夜、青谷議員、池田議員から酒席に呼び出され、池田議員から19日の酒席での話について、人事課に行って話をするようにと言われました。この時点でも、既にまずいことになってきたという思いがあったものの、それ以上に尊敬する池田議員が自分の思いを受け入れてくれず、やるせない気持ちでいっぱいになり、作り話だったと言えずじまいでした。そのまま、池田議員は一晩ゆっくり考えろと言って帰られました。私は、良心の呵責に耐えかねて、残った青谷議員に作り話だったと告白をしました。しかし、取り合ってもらえませんでした。

5月23日に青谷議員と13日に電話で話した民間人の方に、LINEで作り話だったということを説明し、謝罪をしました。

24日の日には、青谷議員に11時頃に電話で、池田議員に会わせてほしいとお願いし、13時頃に池田議員の事務所で会いました。そして、池田議員には作り話だったということ、この5月24日に説明をし、謝罪をしました。

池田議員は私が民間の方に送ったLINEの内容を御存じで、それなら話をするのではないと言われました。それ以降、青谷議員や池田議員との接触の機会はありませんでした。

そこで名前を挙げてしまった3人の職員の中に、私の元上司の方がいましたので、その方に電話で事情を説明をしました。そして謝罪もしました。

5月25日、人事が呼び出しの上、コロナ自粛中にマージャンをしたのかとのヒアリングがありました。池田議員が人事に連絡したのだと思いました。

人事にはマージャンをした事実はなく、私の作り話だと正しく説明をしました。夜、元上司にお願いをし、名前を挙げてしまった4人の議員と、残り2人の職員に集ってもらい、これまでの経緯を説明し、謝罪をしました。

3人の職員にも、人事からのヒアリングが行われていることや、各議員にマスコミからの問合せが来ていることを知り、大変なことをしてしまったという後悔の念で涙が止まらず、

言葉にもならず、しっかりした説明ができなかったように思います。

26日に改めて、夜に前夜と同じメンバーに集まっていただいて、経緯を詳しく説明させていただきました。

27日には、人事からのヒアリングは25日も含めて計3回、マスコミからの問合せは複数社ありましたが、私はその場でも、マージャンをした事実はなく、作り話だったと、その動機や経緯として、上記のような説明をしています。

6月8日、大綱質疑で池田議員が私の5月19日時点での話を基に質疑をされました。5月24日に既に私自身が作り話だったと説明をし、謝罪をしたにも関わらずこのような事態に至り、どのようにすればよいか当惑をしています。

謝罪も含めて、この文書を私はいただきました。

そこでお尋ねをしたいと思いますけども、このLINE、それと泉州日日という新聞を題材に、この前の質問があったように思いますし、議員の名前も挙げられたと思っておりすけども、このLINEについて、議会で示されたLINEについて、このやりとりについてはどうだったのか、人事のほうからお答えをいただきたいと思います。

◎野村 人事課長 該当職員に聞き取りを行いましたところ、本人はLINEのやりとりはしたと、内容は自分の作り話で事実ではないとの趣旨のことを述べております。以上でございます。

◆吉川守 委員 今後、何回も調査をされたということです。新しい事実が出ない限りというようなお話も私も聞いておりましたけれども、今後の方針というんですか、この調査について、どのように人事としては考えておられるのか、お答えをいただきたいと思います。

◎野村 人事課長 現時点では、これ以上の調査は難しいと考えております。

今後、新たな事実や調査に値する情報が出てくることがあれば、改めて調査を行っていきたいと考えております。以上でございます。

◆吉川守 委員 時間がないので紹介できませんでしたが、それぞれにおわびの文書もこの職員から出ております。また、参考の資料としてお渡しをしたいと思いますけれども。どうか、今まで調査した結果を踏まえて、なるべく早い結論というんですか、議員も非常に迷惑をしている、職員もやっぱりモチベーションが下がるということです。人事は職員を守らなければいけないと思いますし、その中では、早い結論をお願いをしたいなと思います。一応のけりをついたと私自身は思っておりますけれども、その点についてはどうでしょうか、局長どうですか。

◎大丸 総務局長 先ほど、人事課長のほうからもお答えを申し上げましたけども、現時

点ではこれ以上の調査は難しいという、今、そういうところでございます。私ども、公務員には全体の奉仕者として高い倫理観が求められておりますので、今後新たな事実や、調査に値するような情報があれば、改めて調査をしていかなければならないという、人事としてはそういう立場でございます。以上です。

○信貴 副委員長 吉川守委員に申し上げます。時間が超過しておりますので、簡潔に発言をまとめていただきますようお願いいたします。

◆吉川守 委員 もうこれで終わります。ありがとうございました。よろしくお願いいたします。